

OKoTaC 通信

2017年12月31日発行

NO.38

オコタック



キッザニアで なりきり大使館員！（p6）



高校生による地下鉄ボランティア（p3）

P 2 NPO活動報告(1)

『外国人家族のための高校進学説明・相談会』

P 3 NPO活動報告(2)

『2017年度 府内高校生による訪日観光客への案内通訳ボランティア』

P 4 地域の子ども支援教室から㉘

『八幡屋おやこにほんご教室「かるがも」』（大阪市港区）

P 5 Air Mail メキシコ便り㉞

『グアテマラ、ホンジュラス（2）』

P 6 多文化な子ども@大阪のニュース

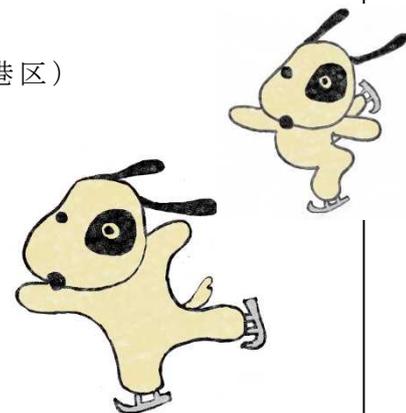
『キッザニア甲子園・プレミアムナイト 2017』

P 7 特別寄稿

『日本語指導の必要な児童生徒の現状（前篇）』

P 8 イベント情報

書き損じはがき等のご寄付をお願いします





おおさかこども多文化センター 活動報告(1)

『外国人家族のための高校進学説明・相談会』

(大阪府社会福祉基金地域福祉振興助成金事業)

11月18日(土)、JR天満駅近くにある国労大阪会館で、『外国人家族のための高校進学説明・相談会』を開催しました。

子どもは日本の学校に行っているが、親は日本の学校に通った経験がないので、高校や入試についてよくわからない。また、母国の中学を卒業後に来日したいわゆる“ダイレクト”であるため、高校の情報が十分に得られない。——そんな外国人家族のための進学説明会も、今回で3年目です。参加希望者は年々増え、今年度は、来年の高校入試を目指す中学生とその保護者、中学校教員、通訳者、地域のボランティア等を含め、総勢60名近い参加がありました。当日は、大阪における外国にルーツのある子どもたちへの支援に関わる入試や高校生活情報について、熱心な話し合いが行われました。

まず、高校教員から、大阪府の来年度の入試情報と高校生活についての紹介がありました。外国にルーツを持つ生徒や家族にとっては、出身国の制度と大きな違いがある日本の入試のシステムや、高校の状況を理解することは難しいことです。言葉上では理解できているようでも、入学後、それまでの認識と実際の学校生活との違いに悩む生徒の話が、今までも少なからずありました。中には、学業生活を続けていけないケースもありました。そのギャップを少しでも埋めるために、さまざまな疑問や不安を事前に相談することができるガイダンスや説明会は欠かせません。

その後、八尾北高校に在籍する中国出身の生徒からの体験談がありました。入試のためにがんばったことや、高校に入ってからの楽しいこと、将来の目標などを和やかな雰囲気の中で語ってくれる先輩の話に、参加生徒や家族は熱心に聞き入っていました。そのあとのテーブルごとの相談会でも、その先輩生徒に何度も質問しに行っていた家族や、受験勉強のアドバイスをもらい真剣に話し込む中学生の姿もありました。受験生にとっては、間近に迫った入試や高校生活を

2017年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業

がいこじんかぞく こうこうしんがくせつめい ぞうごんかい
外国人家族のための高校進学説明・相談会

いつ? : 11月18日(土) 14:00~16:30 (受付 13:30~)

どこ? : 国労大阪会館
1階ホール
(大阪市北区藤原2-2)

JR天満駅(北東)下車、徒歩3分。
福祉館内にもあります。
<https://mao.go.jp/place/2700403922/map/>

ないよう: 大阪府の高校とはどのような学校なのか、入学するにはどのようにすればよいのか? 府立高校、私立高校について、高校でかかる費用(お金)や日本の教育システムについても説明します。
※個別教育相談会もあります。 ※中国語、英語の通訳あり
(そのほかの言語も別席できる場合があります。11月4日までに問い合わせください)
さんかするひと: 日本語を母語としない家族、学校教員、地域の支援者

ひよう: 無料 (お金は、いりません)

もうしこみほうほう: 11月11日(土)までにFAXまたはMailにて
FAX: 06-6586-9477 mail: osakakodomo@gmail.com

主催: NPO法人 おおさかこども多文化センター (URL: <http://osaka.go/>)
大阪府西区西本町1-7-7 CE西本町ビル6階



具体的にイメージできる、貴重な機会になったのではないのでしょうか。

今回、会場の場所とも関係するのでしょうか、参加者のほとんどが大阪市内の中学生でした。もっと府内全域からの参加があれば、各地の生徒や家族の思い、ニーズなども、より幅広く把握できるのではないかと思います。

また、昨年からはまった「大阪府立高等学校応募資格審査」制度では、特別枠校の受験に必要な条件を満たしているかを府教委で一括審査します。そのため、中学校はまず各市教委に必要書類を提出するのですが、その際には、中学校と各家庭の間で密に連絡を取り合い、条件の確認等をしなくてはなりません。進学のための手続きや手順について、学校側と各家庭がしっかりと共有することが不可欠ですが、会場の外国人保護者の中には、それについて十分に理解できていない方もいたようです。11月末の府内の公立中学校長会による「進路希望調査」でも、現時点での特別枠志望の生徒の数が発表されていますが、志願者数が定員を下回る学校もあり、今回参加していた生徒たちがその数字にカウントされているのか、少し不安な気持ちになりました。

外国ルーツの生徒たちが安心して受験に臨めるよう、正しい情報をきちんと届けることは必須です。オコタックでは今後も、必要に応じて地域の支援教室などとも連携しながら、この課題の解決に努めていきたいと思ひます。 (KA)

おおさか子ども多文化センター 活動報告（2）



2017年度「府内高校生による訪日観光客への案内通訳ボランティア」

今年もやっています！3年目を迎えた地下鉄通訳ボランティア

高校生の長期休み中に実施するこの活動は、夏休み・冬休み・春節（3年生のみ参加）・春休みの四つの期間に、御堂筋線なんば駅の北と南の改札口付近でおこなっています。今年度も、これまで夏期23日、冬期12日 計25日 9校の生徒、延べ140名が参加しました。

こんなことがありました

冬休みの活動中のエピソードを紹介します。それは駅員の方から緊急の応援依頼から始まりました。韓国からの観光客がロッカーを使用する際、トラブルが生じたということです。それほど大きな問題ではないのですが、駅員と観光客の言葉が通じない者同士、詳しいコミュニケーションがとれない状況での依頼でした。たまたま、この日に参加していた韓国の高校生の通訳で対応し、少し時間はかかりましたが、観光客も納得して帰りました。駅員やサービスマネージャー（交通局職員で案内程度であれば英語・中国語・韓国語ができる）では、なかなか詳しい説明ができないなかでの高校生の通訳でした。このとき、その高校生は観光客からも交通局職員からも感謝されていました。



ロッカー前で通訳

オコタックがこの企画をした目的は、外国につながる生徒が、この活動を通じて社会的貢献をおこない、自己肯定感の向上につなげる、というものです。また、社会に対してはこれらの生徒の存在をアピールするということもあります。この出来事は、その目的の一部を実現できたのではないかと思います。

3年間の変遷

実は、『OKoTaC通信』での報告は2016年2月に発行した第27号以来ですが、この間、いくつかの変化がありました。すべてお伝えするには紙幅が足りないので、活動の名称の変化だけ記します。

2015年度「府立高校生による中華圏観光客への案内通訳ボランティア」

2016年度「府立高校生による訪日観光客への案内通訳ボランティア」

2017年度「府内高校生による訪日観光客への案内通訳ボランティア」

初年度は、府立高校には多くの中国ルーツの生徒が在籍していたことから、まずは中国からということで、始まりました。しかし当初から、府立高校には中国だけでなく他の国からやってきた生徒もいるので、彼らも活躍できる場が必要だ、という認識がオコタック内にはありました。そこで2年目は、英語対応できるフィリピン・ネパール・ペルー・ブラジルなどの生徒も参加できる形になりました。さらに3年目は、府内の私立高校に通う外国ルーツの生徒も視野に入れた活動になりました。最初のエピソードに出てきた韓国の生徒は、今年初めて参加した建国高校の生徒です。

交通局の配慮・心遣いへの感謝と新しい試み

この3年間、本当にお世話になっているのが大阪市交通局運輸部駅務課のサービスマネージャーのみなさまです。通訳だけでなく、生徒が一人で交通案内することがありますが、常にあたたかく見守っていただき、時には丁寧に指導していただいております。この活動が、サービスマネージャーの存在なくして成り立たないものであることは言うまでもありません。

さらに、なんば駅の駅員のみなさまと高校生がペアを組んでの活動も始まりました。これも交通局からの提案で始まったものですが、高校生の力と、頑張っている姿を評価して下さったことだと思うと、参加した高校生に誇りを感じます。

夏休みなどの長期期間中に、御堂筋線なんば駅で緑のビブスをつけている高校生がいれば、少しでも注目していただければ、と思います。

(Y.H)



案内した観光客と一緒に

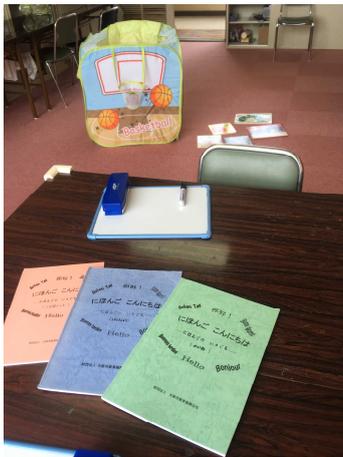


八幡屋おやこにほんご教室 『かるがも』(大阪市港区)

大阪市港区で活動している「八幡屋おやこにほんご教室『かるがも』(八幡屋地域 識字・日本語交流教室)」は、大阪市教育委員会 識字推進事業で、大阪市で唯一の親子が対象の日本語交流教室です。愛称の『かるがも』は、親子で寄り添って歩く「鳥のかるがも」から名付けました。

2016年10月から2ヶ月間「港区八幡屋地域 識字・日本語交流ボランティア入門講座」を受講したボランティアが、準備期間を経て、2017年1月から活動を始めました。ボランティアの多くは、それまで活動経験のないメンバーですが、他教室にて活動しているメンバーとアイデアを出し、協力し合っています。

数年前まで活動していた池島日本語交流教室の物品を引き継ぎ、備品などは充実していますが、教科書などは古くなっていました。また親子教室ということもあり、学習に役立つおもちゃやベビーふとん、ベビーサークルなど、他の教室とは違う物品を要することは、活動を始めてからわかったことです。



主な活動内容は、学習者さんそれぞれに合ったテキストを使用しての日本語学習です。その他にも、お子さんが保育園や小学校に通うと、お便りや連絡プリントが沢山配られて、それが読めなかったり、内容が分からなくて困るという話を聞きます。そのため、家からプリントを持ってきてもらい、ボランティアが分かり易く伝えたりしています。また、学校生活を送る上での分からないことや、心配事の相談にのったりもしています。

教室への参加は一度教育委員会へ電話で予約してからになるので、日本に来てすぐ教室を訪ねてくる学習者さんは少ないです。しかし、来日してから時間が経っている方でも、お母さんやお子さんが日本語に触れる機会があまりなく、家族で学習に来られる方が多いです。

ただ、数回来られてもいつの間にかいらっしやらなくなり、しばらくは学習者がいないこともありました。区内の小中学校で何度かチラシの配布をしてもらいましたが、「そもそもチラシの内容が難しく読めないのでは？ちゃんと届いてるのかな？」と意見が出て、ボランティアさんの協力で英語と中国語のチラシを作成したり、区内の子育て支援情報紙にて告知させて頂いたりと広報活動をしました。

そんな中、気兼ねなく子どもと一緒に学習出来るということで、現在は3組のご家族が継続的に参加されています。

小学生のいるご家族の場合、お子さんとは学校の宿題を見たり、保護者とは国語の教科書の文章を読みながら学習したり、日常会話を中心に初歩的な日本語を学習したりと、ニーズにあったフォローをしています。小さなお子さんとは、遊びながら無理なく日本語を引き出し、自然に学習出来るようなおもちゃや環境、言葉掛けなど心がけています。

ボランティアメンバーもそれぞれ仕事や生活の中での活動なので、日によっては少人数になることもありますが、学習者さんとコミュニケーションが取れるように工夫しています。

ボランティアは港区在住者に限っていません。親子が対象の教室なので、親子でのボランティアも大歓迎です。今も、お子さんを連れて、親子で活動している人もいます。興味のある方、是非、私たちと一緒に活動してみませんか？

まだまだ課題も多く、教室も成長途中ですが、1年間の活動の中で必要とされている存在だと実感しています。学校や地域、行政とも連携しながら、ボランティアの側も楽しく活動できるような教室を、これからも続けたいと思います。

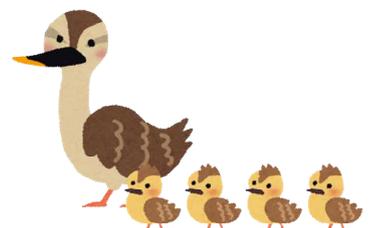
(やはたや かるがも 世話人 川添美雪)

活動場所: :大阪市立八幡屋小学校 3階 会議室 (大阪市港区八幡屋 3-3-5)

活動日時: :毎週土曜日 10時～12時

参加対象: :日本語を勉強したい小学生までのお子さんのいる親子

問い合わせ: :大阪市教育委員会 Tel: 06-6539-3346 (9時～17時)





海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り③ 「グアテマラ、ホンジュラス(2)」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

ホンジュラスのコパン遺跡から、いったんグアテマラのアンティグアに戻り、今度はここからバスで2時間半のアティラン湖のほとりにあるパナハッチェルに行きました。ここは湖の周りに多くのインディヘナの村があり、湖を船で航行できます。パナハッチェルに降りたつとたん、たくさんの人が自分の船に乗れと押し寄せてきました。そのうちの一人が私の行こうとするホテルは高くなっているのだから別の安い宿につれていってあげるといい、船も安くするというのでついていきましたが、宿は安いだけはあるというしるものでした。また船賃も船着場の人と結託して安いと思わせているのではと疑われたので、彼の船に乗るのはやめました。おまけにバスで行けるはずの近くの村も、道が悪くてバスでは行けないから自分の船で行けというのです。これもどうも嘘っぽいのでやめました。



別の船でサンティアゴ・アティラン、バスでサンタ・カタリーナ・パロポのふたつの村に出かけました。サンタ・カタリーナ・パロポで湖のほとりを歩いていると、女の子が湖で大量の洗濯をしていました。彼女の名前はアナ=写真左、といい 10 歳、毎朝歩いて1時間の山の中から、ここまで家族みんなの洗濯物を洗いにくるのだそうです。そして、洗濯が終わると山に帰り 12 時半から始まる学校のためにまた下りてくるのだそうです。毎日4時間、山を登ったり、降りたりしていることになります。いろいろ話していると弟のニコラス=同右、がやってきました。3人でお菓子を食ったり、写真の撮りあいっこをしながら楽しく過ごしました。ニコラスは初めてカメラに触れるらしく、私とアナの写真がうまくとれなくて、いつも片方が切れてしまいます。でもそのうちにちゃんと2人が真ん中に入り、とてもうれしそうでした。アナが私に「朝ごはんを食べたらまた 12 時半にここに来るので待っていて欲しい」と言いました。でも私は「次のバスに乗らないといけなくて 11 時 30 分には行かなくてはならない」というと、とても残念そうでした。私もとても残念でしたが、頭に大きな洗濯物のたらいをのせ山に帰っていくアナを、いつまでも見送りました。

バスの時間までまた湖のほとりを歩いていると、今度はアナより少し小さな女の子が、美しい刺繍のテーブルセンターを売りに寄ってきました。いくらかと聞くと 100 ケツァール(約 1300 円)といいます。私は高いからいらぬという、いくらだと買うかと聞いてくるので、あまり買う気はなかったのですが、つい「60」と答えてしまいました。するとその子は 80 に下げ「10 は私へのチップにくれ」というのです。私が断ると今度は 70 に下げ、「私にアイスクリームを買って」となかなかしつこいのです。私はあまりのしつこさに全く買う気がおこらなくなり、彼女が私の言い値の 60 に下げたにもかかわらず買いませんでした。丁々発止のその間約 30 分、でも別れてから少し後悔していました。あんなに一生懸命で、おまけに私の言い値の 60 まで下げたにもかかわらず追い払ってしまったからです。少し反省しながら通りを歩いていると、さっきの女の子が、きっと仕事が終わったのでしょうか、私の前を横切りました。そのとき私の顔を見てにこっと笑ったのです。その顔はあの手練手管を使った売り子ではなく一人の女の子に戻っていました。私はなんだか救われたような気持ちになり、思わず彼女に手を振っていました。



『キッズニア甲子園・プレミアムナイト 2017』(10月25日(水))に参加しました

編集部より

オコタックではこのたび、ゆめまちプロジェクト(阪急阪神ホールディングス)より、上記イベントの招待を受けました。そこで、オコタックの活動で日頃から連携させていただいている団体に声をかけたところ、NPO 法人トッカビとMinami こども教室から参加がありました。以下、それぞれの団体からの子どもたちの様子などの報告です。



キッズニアには、トッカビは高学年の子どもたちに呼びかけ、小学4年～6年生 21名が参加しました。子どもたちは呼びかけ段階から大はしゃぎでした。

八尾からキッズニアまで授業終了後に移動することになれば、早く到着が午後6時ころを想定していたのですが、日頃の子どもの行いが良かったのか、その日は午前中だけの授業で下校。4時半には現地到着することができ、キッズニアを満喫するには、たっぷりの時間を確保することができました。



何名かはキッズニア経験者もいましたが、ほとんどの子どもたちは初めて。説明が終わると一斉に体験場所探しに駆け出しました。子どもたちは「消防署の体験が面白かった」「ラジオのDJなんてできると思わなかった」「人気のところに申し込めなかったのが残念」と話し、体験中の子どもたちの顔は真剣でとても楽しそうでした。それは日常活動とはまた少し違う一面でした。たっぷりの時間が確保できたとはいえ、7時集合時間になると閉館までいたい、という子どもたち。翌週の活動では「また行きた〜い」の声が多く聞かれました。

今回貴重な体験の場をご提供いただきました、阪急阪神ホールディング株式会社様に改めて感謝申し上げます。

(NPO 法人トッカビ 金峰健)



Minami こども教室は、10月25日開催のキッズニア甲子園プレミアムナイトにご招待いただき、小学生10名が参加してきました。事前にキッズニアがどんなところなのかを学び、自分たちはどんな体験がしたいかなどを考えさせ、



当日を楽しみに迎えました。当日、学校が終わってすぐに集合した子どもたち。この日は、自分たちでグループに分かれ、どのブースに行けばいいのか、などを話しあって考えて行動する姿が見られました。普段の学習活動では、なかなかみられない「協力」して楽しむ姿がみられ、これもキッズニアの力なのではないか、と感じました。

かいっぱい職業体験を楽しんだ子どもたちからも喜びの声が聞かれました。「働いてお金もらえて、そのお金を使うっていうのが楽しかった(小5)」「もっと長い時間がほしかった(小6)」「人が多すぎた(小6)」「楽しかった(小3)」と笑顔で感想を述べてくれました。

また、高校生2名にも引率者という立場で参加してもらいました。「さまざまな企業が協賛していて普段できない体験をすることができていいなと思った」「楽しそうな小学生の姿がみられてよかった」と高校生も満足した様子でした。大人の階段を上りつつある高校生たちの成長も見ることができました。

(Minami こども教室 甲田菜津美)



特別寄稿 『日本語指導の必要な児童生徒の現状(前篇)』

村上自子(オコタック副理事長)

2016年10月末時点で、日本で働く外国人は108万人となり、はじめて100万人を超えました。前年同期から19.4%増加し、4年連続過去最高を更新したように、日本社会はグローバル化が進んでいます。

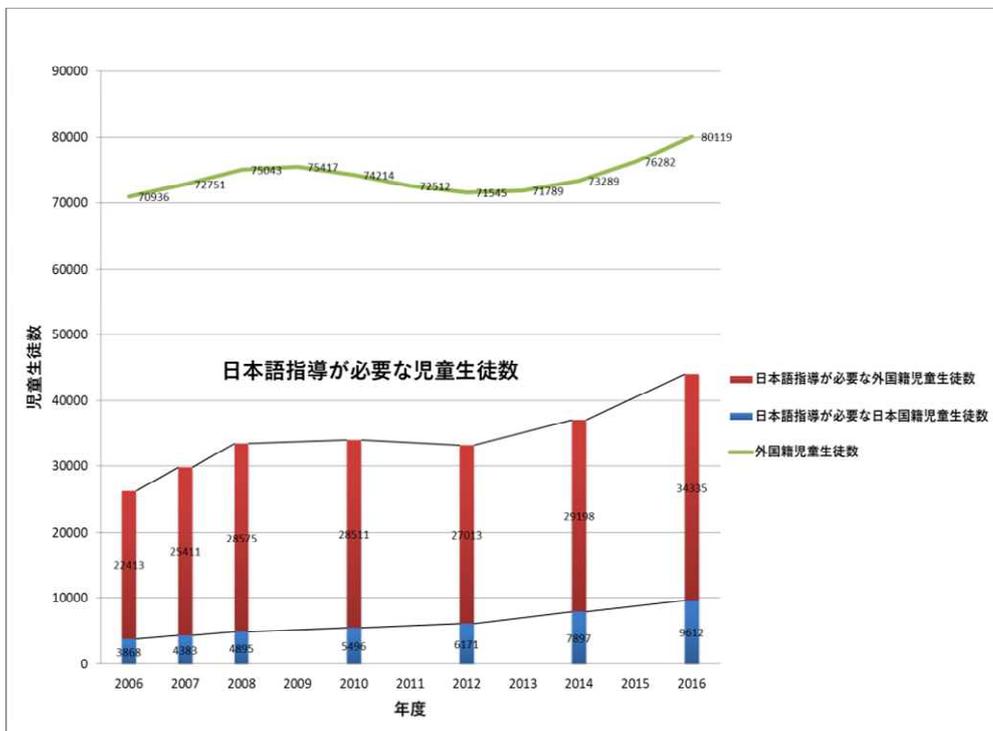
日本の学校には、様々な背景や事情から日本語の運用能力が十分ではない子どもたちが編入学してきます。80年代には、中国帰国者(の子どもたち)や海外赴任から帰国した邦人の子どもたちが増えてきました。さらに1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正後には、中南米から来日する日系人の子どもたちも増加しました。それ以前からも、多様な言語・文化背景を持つ子どもたちは学校現場に存在していましたが、日本語を母語としない就学児の急激な増加と共に、「児童生徒に対する日本語教育」が課題だと言われるようになりました。

文部科学省が昨2016年5月1日に実施した調査(隔年)では、日本語指導の必要な子どもの数は43,947人。これは、前回2014年の調査による37,095人から18%増加して、過去最高です。そのうち、外国籍の子どもの数は34,335人(17.6%増)、また、日本国籍の児童生徒数は9,612人(21.7%増)となっています。

* 公立学校に在籍している外国人児童生徒数は80,119人(9.3%増)を数える。(下記グラフ参照)

文科省の調査で日本語指導が必要とされる子どもとは、日本語会話が十分できない子や、会話ができてても学年相当の学習に使う言葉がわからず、学習に支障がある子を意味します。では、「日本語指導が必要」な状態をどのような基準から判断しているのでしょうか？ 調査によると、最も多かった”判断基準”は、「児童生徒の学校生活や学習の様子」と「来日してからの期間」です。しかしこれらは客観的な基準ではなく、担任や校長の主観的な判断によることが多く、課題があります。実際には、日本語指導が必要な児童生徒の数は、文科省が調査した人数の数倍に及ぶと言われています。

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒を母語別にみると、ポルトガル語を母語とする者の割合が最も多く、



(文部科学省による2016年5月の調査より)

25.6%にのびます。ついで中国語 23.9%、フィリピン語 18.3%、スペイン語 10.5%で、これらの4言語で全体の78.2%を占めています。また母語別でこの2年間に大きく増加したのは、中国語(1,794人=28.0%増)、英語(205人=26.4%増)、ベトナム語(300人=24.7%増)、フィリピン語(1,130人=21.9%増)となります。日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒を言語別にみると、フィリピン語を使用する者の割合が約30%で、最も多くなっています。(つづく)

イベント情報

★ 『第16回 Wai Wai! トーク Part2』 (大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

府立高校に在籍する、外国にルーツをもつ生徒たちのスピーチ大会。
自身の体験に基づいた想いや願いを、「母語・継承語」で発表し、毎回大きな感動と共感を呼んでいます。
今回は1年生が出場します。

【日時】 1月21日(日) 13:30~17:00

【会場】 府立住吉高等学校 (大阪市阿倍野区北畠2丁目4-1)
阪堺上町線「北畠」駅より西へ200m

※ 見学希望の方は、事前に府立外教 (Mail: furitsugaikyo@nifty.com) まで申し込んでください。

年賀状などの「書き損じはがき」、

引き出しの奥に眠っている「未使用の切手」をご寄付下さい

当センターの活動を広く知っていただくために
『OKoTaC 通信』を各地の関係団体や公共施設などにも送付しております。
そこで、これら広報活動へのご支援をお願いしたく、
今年も「書き損じはがき」等の寄付を募らせていただくことになりました。

- ・送っていただくはがき・切手は、「郵便局発行」の「使用していないもの(未投函のもの)」に限ります。
- ・書き損じたはがきも、未投函であれば寄付になります。
- ・普通のはがきだけでなく、年賀はがき・かもめ一るなども対象です。
- ・はがきも切手も、未使用であれば、発行年や額面金額などに関係なく寄付となります。

※書き損じはがきのプライバシー保護につきましては十分留意いたしますが、
もしご心配であれば、お手数ですが住所などをマジックで消してお送り下さい。
なお、はがきは郵便局でまとめて溶解し再生紙の材料としています。

☆ご協力いただける方は、封筒などに入れて、当センター事務所(下記住所参照)までお送りください。
また、事務所にお寄りくださるときに、ご持参くださっても大歓迎です。よろしく申し上げます!



NPO 法人 おおさか子ども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL http://okotac.org

郵便振替【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼロキュウキュウ)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

フリガナ: トクヒ)オオサカコドモタブンカセンター

